

基本文書

助産ケアの理念とモデル

2025年改訂版

背景

歴史を通して、助産の技術と科学は多くの変遷を遂げてきた。助産の特徴や特性は、コミュニティの知識や文化的・社会的伝統に沿って異なる進化を遂げている。その中で、女性のケアは、女性の生涯にわたる生殖に関する健康の支援とケアの提供に向けた全人的な取り組みの中心に据えられている(1)。

現代では、助産は社会的実践から、独自のプロフェッショナルフレームワークを持つ、コンピテンシーに基づく規制された専門職へと発展した。

国際助産師連盟（ICM）が定める「助産師の定義」(2)は次の通りである：

助産師とは、ICM「助産実践に必須のコンピテンシー」および「助産師教育の世界基準」の枠組みに基づき、その人物が拠点を置く国で認められている助産教育課程を修了し、登録に必要な資格を取得している、かつ、あるいは助産を実践するための法的免許を有し、

「助産師」という肩書きを使用できる者、かつ助産師の実践範囲でコンピテンシーを発揮できる者である。

ICM は、助産師を、世界のあらゆるコミュニティの女性、少女、多様なジェンダーの人々や新生児に対して、生涯を通じて性と生殖・妊産婦・新生児・思春期の健康（SRMNAH）をケアする最適な専門職として認識している。

助産師は、助産師と女性とのパートナーシップ、信頼関係、相互関係、公平な関係に基づきケアを提供する。助産師はそれぞれ、自身の専門的な能力や個人的な力を女性に強いことがないように努めるものとする。むしろ助産師は、女性に敬意を払い、個別性があり継続的かつ上下関係のないケアを行うことによって、女性一人一人が主要な意思決定者となる関係を確立するよう努める(3)。

ICM の『助産ケアの理念とモデル』は、女性と助産師の間で共有された経験に基づいており、女性がポジティブな経験を得られるようにする上で、人間の尊厳の尊重、思いやり、人権の推進が重要な役割を果たすことを強調している。

ICM の助産ケアの理念

- 妊娠期、分娩期および産褥期は、通常の場合、正常な生理学的なプロセスをたどる。
- 妊娠期、分娩期および産褥期は、女性、少女、性的に多様な人々、その家族およびコミュニティにとって、深い意味を持つ重要な経験である。
- 助産師は、妊娠期、分娩期および産褥期、女性に寄り添い、最適なケアを提供者です。
- 助産ケアは、女性の生殖や性に関する健康や人権を推進・保護・支持し、民族のおよび文化的多様性を尊重する。これは、正義、平等性、人間の尊厳の尊重という倫理的原則に基づいている。
- 助産ケアは、女性とのパートナーシップのもとで行われ、自己決定権を尊重し、尊厳があり、個別性があり、継続的で非権威主義的なケアである。
- 助産ケアは、女性の健康および社会的立場を保護および向上させ、女性が妊娠、出産や産後の期間に対応するための自信を築けるよう女性を自律させる。

- 助産ケアは、女性とのパートナーシップで行われ、自己決定の権利を認めてのものであり、敬意が示されて、個別性があり、継続的で、非権威主義的なものである。
- 倫理的かつ適格な助産ケアは、公式かつ継続した教育、科学的な研究、科学的根拠の応用から伝えられ、導かれる。

「助産師の理念」は、妊娠期・分娩期・産褥期にケアを提供する上で中核をなすものであり、また、助産師による生涯にわたり包括的な SMNAH ケアの場面においても同様である。

ICM の助産ケアモデル

- 助産師は、女性、少女、多様なジェンダーの人々、思春期の若者および新生児の健康と権利を促進、保護する。
- 助産師は、女性および女性の出産における可能性を尊重、信頼する。
- 助産師は、正常な出産において不必要な介入を行わないことを推進、支持する。
- 助産師は、適切な情報と助言を女性に提供して、参加を促し意思決定への参加を促し強化する。
- 助産師は、敬意を示し、先を見据えた、柔軟なケアを提供する。こうしたケアは、女性や新生児、家族やコミュニティのニーズを包含したものであり、また、助産ケアを求める女性と助産師との間の関係性に注目することから始まる。
- 助産師は、女性自身および家族の健康に対する責任を担えるよう、エンパワーメントを図る。
- 助産師は、他の保健医療専門職と協力および相談し、女性や新生児、家族やコミュニティのニーズに応えるよう実践する。
- 助産師は自身のコンピテンスを維持し、科学的根拠に基づく実践ができるようにする。
- 助産師は技術を適切に用い、問題が生じた際は適時に照会する。
- 助産師は、助産ケアを個人的および集団的に発展させ、生涯教育の概念のもと、次世代の助産師や同僚を教育する責任を有する。

妊娠期、分娩期、産褥期の期間、同様に助産師による生涯を通じた包括的な SRMNAH ケアの他のいずれの場面においても、「助産ケアモデル」は、ケアを提供する上でふさわしいものである。

指針となる原則

「助産ケアの理念とモデル」は、助産ケアの指針となる原則を世界的に示すため、2005年にICM国際評議会にて最初に採択された。ICMの「助産ケアの理念とモデル」の根底にある、人と人権を中心としたアプローチは、助産師の専門性の強化に焦点をあてた協働的な取り組みの一環として採用されている。WHOの「助産ケアのモデルへの移行に関する国際的な意見表明」(4)では、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成するための取り組みの不可欠な部分として、女性と助産師との間に信頼に基づくパートナーシップと関係性があることの重要性を確認している。

加盟団体への推奨

ICMは、加盟団体に以下を実施するよう要請する。

- 本所信表明書を、助産師と女性およびその家族との関係、助産師と他の保健医療専門職との関係を築く指針として使用すること。
- 本所信表明書を、助産師の教育、助産ケアの組織、助産ケアの評価の指針として用いること。
- 本所信表明書を、助産実践に関する規制および法律の策定期間に、他の医療職従事者や政府と共有すること。
- 本所信表明書、WHOの「助産ケアのモデルに関する国際的な意見表明」と関連する実施文書を、助産ケアのモデルを推進・提唱・実装するために使用すること(4)。

参考文献

- (1) Barnawi N, Richter S, Habib F. Journal of Research in Nursing and Midwifery (JRNM) (ISSN: 2315-568x) Vol. 2(8) pp. 114-121, December 2013 DOI: <http://dx.doi.org/10.14303/JRNM.2013.064>
- (2) International Confederation of Midwives. 2024. International Definition and Scope of Practice of the Midwife. Available at: <https://internationalmidwives.org/resources/international-definition-of-the-midwife/>
- (3) Pairman, S. Tracy, S. K. Dahlen, H. Dixon, L. Midwifery Preparation for Practice. 2022. Elsevier Health Sciences.SN 9780729597852

(4) Transitioning to Midwifery Models of Care: Global Position Paper. Geneva: World Health Organization; 2024.

2005 年、ブリズベン国際評議会にて採択

2014 年、プラハ国際評議会にて改訂・採択

2025 年、オンライン国際評議会にて改訂・採択

次回の見直し予定：2030 年

2025 年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 訳

「Philosophy and Model of Midwifery Care Model of Care, Philosophy」の原文については、ICM が著作権を有します。日本語版は、ICM 会員団体である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会が、ICM の許諾を得て翻訳しました。日本語版については、日本助産学会に帰属します。なお、ICM も同様の権利を持ちます。日本語版の転載については、ICM ならびに日本助産学会 <https://www.jyosan.jp/> にご連絡ください。なお、学術目的で日本語版を利用する場合は、出典を明記して、自由に引用することができます。